

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する
特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第170号



真っ赤に燃ゆる彼岸花

花だより「彼岸花」

自然写真家 河嶋秀直

「暑さ寒さも彼岸まで」という慣用句を「
存じでしようか

その秋彼岸の頃に咲く事から「彼岸花」の
名前が付けられたようです。

原産は中国、日本には有史以前に持ち込まれ
史前帰化植物と全国に広まつた。

地下の鱗茎(球根)には、強い毒性を有し
害獣予防のため田畑の畔に植えられることが
多かつた一方、救荒植物として毒抜きをして
食料にした時代もあったようだ。

新美南吉作「ごんぎつね」の舞台になつた
矢勝川堤が近くにあり、三百万本とも言われる
彼岸花が市民の手によつて植えられて
いる。

彼岸花の時期になると、早起きをして散歩
がてら写真を撮るのが毎年のルーティンにも
なつていて、朝陽が昇つてくると彼岸花が、
より一層赤色を鮮やかにして輝く。

彼岸花の別名は、地方の方言も合わせると
千を超えると言われているが、そのほとんど
がネガティブな名前が付けられている。

(次ページへ)

別名の中で有名な「曼珠沙華」は梵語で「天界に咲く花」「赤い花」という意味で、珍しくポジティブな名前が付けられて いる。

赤色のイメージが強い彼岸花だが、白や黄色の物もあり、最近は品種改良されてオレンジやピンクの彼岸花も誕生して いる。

彼岸花の花言葉は、色によって違つていて、黄色は「深い 思いやりの心」、そして赤は「情熱」や「また会う日を楽しみ に」など心に寄り添う言葉が多い。

今、世界各地で起つて いる紛争の当事者たちが、彼岸花 の花言葉のように思いやりの心を持つていれば、停戦合意など容易く出来ると思うのだが。

花言葉は、いつの時も忘れていた大切なものを思い出させて くれる。



一輪の彼岸花

雑記 ごまめの歯ぎしり

忘れられない夏

頻発する自然災害。この夏も猛暑で、雨が降れば豪雨 となる。ちょうど十年前の夏、土石流による災害が南木 曽で起きた。残念なことに中学生一人が犠牲になつた。そ の災害が発生した二日後、私は地元の病院で手術を受ける ことになつて いた。

病院に入院したのは、手術を受ける前日だつた。その夜、同じ階のどこか の部屋から子どもの泣き声が聞こえ、なかなか眠れなかつた。手術は無事に 終わり順調に回復して いたが、時折聞こえてくる男の子の声が気になつた。 もしかしたら、災害で亡くなつた子どもさんの兄弟が入院されているのかな と思い、看護師さんに聞いてみた。だが、はつきり答えてもらえなかつた。

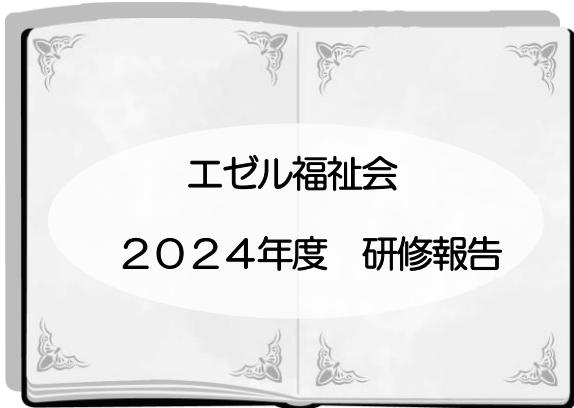
退院間近となり、泣き声も聞こえなくなつた頃、廊下で小学生くらいの男 の子とすれ違つた。足を怪我して松葉づえで歩いていた。怪我の回復と同時に少しづつ現実を受け入れ、一生懸命に歩き始めているように見えた。いろ いろな理由で入院する人たち。一人ひとりに物語があるのだ。

先日、久しぶりに知り合いの娘さんが訪ねて来てくれた。彼女はこの春から看護師として働いている。看護学生の頃は実習で思うように患者さんとコミュニケーションが取れないと泣いていたが、だんだん看護師らしい顔つきになつてきた。そんな彼女にも物語がある。十年前に祖父を不慮の事故で亡 くしている。彼女は小学六年生だつた。

彼女も前述の男の子も、偶然にも当時は小学生。あれから十年、彼らの人生の物語にどんなことが書き加えられたのだろうか。一方、私の傷は消えて なくなりはしないが、体の一部となつた。

(支援者 上村 明美)

エゼル福祉会では全職員研修をはじめとして、職員に様々な機会を通して福祉を学ぶよう勧めています。大川理事長は事あるごとに教養のある職員に育つてほしいと言つています。今回は以下の研修の概要と参加した職員の感想などをまとめました。目の前の問題を解決するのには俯瞰的にものを捉え行



動する力が求められます。これらの研修が職員の気づきや成長につながってくれることを望んでいます。



第1部

ホウネット記念講演を聞いて

コンビニハウス指定相談支援事業所

相談支援専門員 寺澤 麗英

先日、名古屋北法律事務所の友の会、暮らしと法律を結ぶ「ホウネット」第20回総会に参加しました。そこで記念講演としてNPO法人抱撲（ほうぽく）の理事長、奥田知志氏のお話を拝聴しました。奥田氏はキリスト

教の牧師でもあり、北九州の地を拠点に活動されておられます。かなり離れた遠方の県からも依頼や相談があるとのことで、講演を聞くとそれもつなづけるものでした。抱撲の多分野にわたる支援や、失われつのある家族の機能を社会的な仕組みに変えていくという考え方、一人も取り残されない希望のまちを新しい拠点を中心につくつしていくといった様々な活動はとても興味深く、もっともっとと知りたいと思いました。また牧師であられる奥田氏の人間的な魅力にも引き込まれ、覚悟や胆力のようなものを感じました。印象に残るのは、伴走型支援という視点の大切さ。一緒に悩み、一緒に考え、ずっとつながり続けていく。支援者として、問題解決ということ

に意識が行き過ぎていると解決できたかで
きないかという成果のようなことに囚われ
てしまいがち。トラブルや問題を未然に防ご
うとすることで、本人の思いや行動を抑制し
てしまつたり、ともすると行動をジャッジす
るようなかわりになつてしまつたり。本人
らしさや本人の失敗する権利を奪つていて
といふことなどに気づけないますすんで
いく。大切なのは、問題解決型の支援だけで
はなく、伴走型支援と両輪ですすめていくと
いうこと。

私も現在、障害福祉サービスの相談支援専
門員として、様々な生きづらさを抱えた当事
者の方々の相談支援にかかわらせていただ
いておりますが、問題解決型の支援に傾いて

いたことを痛感。しかもそれで何かできたよ
うな気持ちになつて自己満足していたよう
に思います。今回の講演は、相談員・支援者
としての在り方を省みる大切な気づきの機
会となりました。研修などで話を聞くことは
自分の考え方の幅を広げ、引き出しを増やすこ
とにつながります。奥田氏は書籍やSNSな
ど多方面で発信していくので、ぜひ
ひ「支援」に携わる方はふれてみていただけ
たらと思つた次第です。



奥田知志さん
(NPO 法人「抱撲」理事長)

ホウネット20周年記念講演
「だれも孤立させない社会をめざして」
～助けてといえる地域づくり～
2024年6月15日

講師 奥田 知志さん
NPO 法人「抱撲」理事長

格差と貧困が広がる中で物価高騰、社会保
障の切り下げが人々の生活をより困難なも
のにしています。奥田知志さんは「伴走型
支援」を提唱し、人々がつながり続けるこ
とが大切であり、「支援」の枠組みを超え
「ともに生きる日常」が創造されていくた
めの営みが必要であると強調されていま
す。

シリーズ「老障介護」（朝日放送アレビ）

制作者に聞く

朝日放送アレビディレクター 西村 喜智子

賞しています。

024年5月度ギャラクシー賞月間賞を受

ます。

7月13日にエゼル福祉会の研修室で障全

協の全国障害児者の暮らしの場を考える会

総会が開かれました。会報第167号で溝口

さん（通所部施設長）が2023年11月に

厚生労働省との交渉に参加しグループホームの制度について訴えてきた記事を掲載しました。今回はその前日譚にあたるテレメン

タリー2024「行き場のない障害者へ入所

施設 定員削減の陰で」（朝日放送テレビ制

作）を視聴し、ディレクターの西村さんのお

話を聞き制度を変えなければ解決できない

課題があることを学びました。この番組は2

020年のギャラクシー賞を受賞しています。

この作品を含め2017年に始まった40

作品をこえる『シリーズ老障介護』はすでに

2020年のギャラクシー賞を受賞してい

ます。

エゼル福祉会は当初から障害者の自立した地域生活を目指してきました。社会体験の乏しい重度の方でも様々な経験を通して自立した暮らしにつなげることが得意ですが

強度行動障害を持った方の生活への支援の経験が少なかった。広く動けるような空間があり、専門性の高い介助者に見守られて暮らす入所型の施設の維持が必要だと気づかされました。

この報道の後に初めて国が実態調査を進めるきっかけとなつたことは大きな影響を

与えた」とになります。

ユーチューブで「ABCテレビニュース 老障介護」と検索すれば関西に限定せず世界のどこにいても視聴することができます。配信の再生回数はシリーズ全般で6400万回を超えているそうです。会報購読者の皆さんも「うん、視聴ください」。



朝日放送テレビ 報道局
西村美智子さん

<https://www.youtube.com/c/abccch6/video>

朝日放送テレビのディレクター西村美智子さんにお話を聞きました。

明るい話題も多いのですが、「老障介護」の「家族の深刻な場面を、ありのまま伝える」といっしょに徹しました。視聴者の皆さんに、どのように受け止められるのか、大変心配しましたが、たくさんの方々が見てくださっています。取材を受けてくださる方々との出会いにも

恵まれ、報道が続けられております。

【社会問題となる話】障害のある方を

支える家族が、限界を超えた時、子どもを虐待するような事案が起きています。そんな悲しい事件が起きないよう、家族を救えるよう、報道の力で、世の中を支えていきたい、スタッフ一同、そのような思いで、報道を続けています。

【シリーズ化】

夕方のニュース番組では、

明るい話題も多いのですが、「老障介護」の「家族の深刻な場面を、ありのまま伝える」といっしょに徹しました。視聴者の皆さんに、どのように受け止められるのか、大変心配しましたが、たくさんの方々が見てくださっています。取材を受けてくださる方々との出会いにも

【映像の力】

カメラマンと共に現場を取材し、編集マンと共にVTRにまとめます。この問題を知らない方々にも理解していただけのようだと、工夫を重ねています。何度放送しても反省点はありますが、取材を受けたできたの方々の温かさや励ましの声に救われています。

族の問題は、まさに、地域の中で起きている問題です。どなたにとっても身近な問題だと思っています。すぐそばに困っている人がいる、救いを求めている方がいる、そんな思いが伝わればと、報道を続けています。



△ 第6部 △

エゼル福祉会 全職員研修

2024年7月20日

【午前の部】

「障害者をもつ人の意思決定支援とは」

講師 清水 明彦 氏

西宮市社会福祉協議会 副理事長

(青葉園元園長)

【午後の部】

映画「普通に死ぬ」上映

『私はこう思う』を伝えることが大事』という言葉が印象に残った。私は自分の思いを言葉で伝えることが苦手だが利用者さんの伝えられない気持ちを言葉で代弁することで信頼関係が深くなっていることに気づいた。答えや結果を伝えなくてはと焦ったが一緒に揺らいでいる時間も利用者さんとの関係を築くのに大切な時間だと思った。

WILLが開所した時、私は職員となつて

1年目でYさんが毎日ソファに寝ころび

布団をかぶつて1日を過ごしていた日々を

思い出した。関わっている自分はとても無力

に感じ、ただ布団から話す声に対して答える

だけしかできなかつた。少しずつ仕事や周囲

の人に興味を持ち、できることが広がり、1



道されることで関心を集め、政策や制度が変わっていくことに期待します。

● 午前の部 ●

通所部 W-L 殖貞 遠藤 真衣子

清水先生が語られた「聞くことや選択肢を提示するより関わっている『自分がどう感じている』か、本人がどう思うかと同じくらい

人暮らしの生活に慣れ、今はWILLで体をゆらし言葉にノッて過ごしている。何もできない時間もただそばにいて相手の気持ちを感じることが本人の安心に変わり、意欲につながると思う。

西宮市の独自の本人中心支援計画が本当の意味で利用者さんの支援になることに気づかされた。「本人さんは言葉を発せられなくとも自分のために集まっていることはわかる。必ず隅にいても見ている」と語る清水さんの力強い言葉に背中を押された気がした。研修を受けて利用者さんの物語を広げるために周りを巻き込んで一緒に支援を考えること物語の次なるページをめくっていくことを忘れないに日々の支援につなげたい。

● 午後の部 ●

生活支援部 職員 宇都宮 正子

重心の方やその家族、周囲の関わりをわかりやすく描いておりとても印象深く見させてもらいました。周囲の事情で病院に入所することになる方の、通所施設でのお別れ会前日の悲しい叫び声。お別れ会後の涙は、この方と関わったことのない私でさえも辛く感じました。決して悪い場所というわけではない病院ですが日々過ごす場所としては福祉と医療の差は大きく、福祉の人材を増やさなければいけないと感じます。周囲の状況で当事者の思いとは裏腹の状況になる現状が恐くでしょう。暮らしの場を提供していくことはその人の人生を抱えていくことだと思いります。その責任の重さが怖いです。それでも段階で家族を巻き込んでいいのかと疑問も感じました。エゼル福祉会でも利用者さんに癌が発覚したことがあります。癌だから病院へお願いしよう、グループホームでは関わり切れないから退所してもらおうではなく何ができるかな、今からどんなふうにしていこうかと話し合いました。不十分な支援になってしまったと思いますが手探りでも利用者との関わりをやめずに進めていたこのエゼル福祉会が好きです。

また、家族と支援者の話し合いの白熱真合

家族だけに任せていよいものではありません。病気や障害でその人らしさを阻害される」とのないその人らしい生き方で過ごして欲しいです。少しでもその手伝いができたらと思います。そのための人員確保や定着を考えていただらと思います。

通所部 VOL.0 宮崎 結

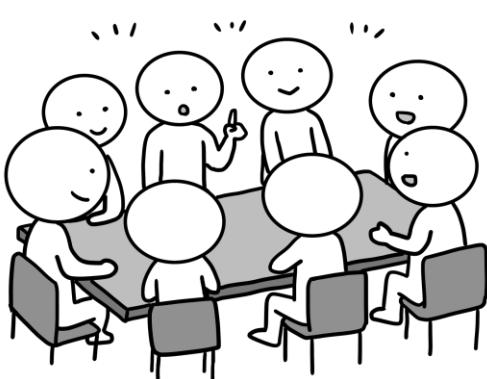
今回の映画では、様々な方の死を目の当たりにさせられました。『家族の死、』本人の死。そして亡くなられた方の周りにいる様々な関係者の表情や感情。いざ自分だつたらどうなるのかと考えてみた時、とても複雑な思いになりました。

お母様が体調を悪くされ自宅で介護でき

なくなつてグループホームや一人暮らしなどの「箱」が見つからない時、『家族、本人はそれを望んでいなくとも会議の中で入所一択になつていくのか。施設側は「夜間に吸引できるスタッフがない。いたとしても、一人で夜間支援をしていく」と不安がある』という一方で、『家族の「希望が見えない』という言葉がとても胸に突き刺さりました。

自分のこれまでの支援を振り返り、「希望の見える支援」ができていたかと改めて考えるきっかけになりました。現実を見据えながらも、今この状態だから難しくてできないではなく、どうしたら可能にすることができるのかを前提として考えていきます。このこと

を念頭に置いて希望の見える支援にしつかり臨みたいと思います。誰にでも必ず訪れる「死」を悲観的に捉えるのではなく、どう生きていきたいかをなかも一緒に私も考えていきたいと思いました。





《活動状況》

7月

- 1日 名古屋生活支援事業者連絡会（渥美）
- 2日 社協 社会人としてのマナー研修
(西川・篠田)
- 6日 音楽サロン開催
(ギタリスト 湯田 大道)
- 8日 連絡調整会議
- 13日 全国障害児者の暮らしの場を考える会総会
(榎原・木村・馬渕・北出)
- 17.31日 W I L L 実践指導
- 17.21日 動作法研修
愛知淑徳大学 二宮先生
- 18日暮らしの場交流会（木村）
- 19日 名古屋生活支援事業者連絡会総会（渥美）
- 20日 エゼル福祉会全職員研修
「障害をもつ人の意思決定支援とは」
西宮市社会福祉協議会 副理事長 清水明彦氏
【公開講座】映画「普通に死ぬ」上映
- 22日 梶山女学園大学訪問（馬渕・小林）
- 23日暮らしの場交流会（久野）
- 29日 会報発送



8月

- 2日 会報会議
- 3日 音楽サロン開催
(ヴァイオリン&ピアノ 青錦 & 木森菜見子)
- 8日 連絡調整会議
- 9日 名障連 虐待防止 身体拘束適正化研修
(溝口)
- 10~14日 W I L L・V O L O 夏季休暇
- 15日 処遇改善委員会
- 18日 動作法一日訓練会（渥美・岩下）
- 21.28日 動作法研修
愛知淑徳大学 二宮先生
- 25日 障害者福祉就職フェア 名古屋市公会堂
(名古屋生活支援事業者連絡会主催・
名古屋市後援)
(渥美・久野)
- 27日 社協 普通救命研修（有満）
- 30日 社協 発達障害研修（岩下）



事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

7月～8月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※1万円以上お振込みの方

藤森正子 近藤和実・弘治
 鈴木容子 蜂須賀知子
 山上小枝子 黒崎とし子

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

塩澤しのか 高田真由美
 石原まち 我妻勇男 榊原芳典

(WILL)

宮田まどか

(VOLO)

高嶋一臣 石原優樹 浅井宏紀
 久保昂太朗 小出朱里
 早川佳乃

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

石原正寅 達本道子 東原光江
 石原まち 鈴木千春 寺西 剛
 田村淳仁 林 京香 桐澤 潮
 後藤 楓 鈴木悠太 小林愛恵
 山本 武 渡部陽妃 白木佑穂
 松井暖実 梶田里奈 北出麻衣
 森奈留美 杉浦小椰 重松歩月
 佐藤晴紀 我妻勇男
 井戸田紗優 玉那覇詠洸 青島優津樹
 酒井まみ子 長谷川美緒 榊原つぐみ

★ 会報発送ボランティア

半田素子 佐藤美紀子
 丹羽正子 藤田ますえ
 吉田嘉子 渡辺世津子 山田喜代子

コンビニハウス クリスマス会のお知らせ



毎年恒例のクリスマス会を下記の通り開催いたします。
 皆様からのお申し込みをお待ちしています。

日 時 2024年12月25日（水）13:20 開演予定
 会 場 北区役所 講堂（名古屋市北区清水四丁目17番1号）
 地下鉄黒川駅より徒歩5分

定 員 80名（定員になり次第、締め切ります）

参加費 1,000円（チケット代）

プログラム：バンド演奏・お楽しみ抽選会 他
 参加申し込みは下記までお願いします。

連絡先：電話／FAX 052-505-6082

※感染状況で急遽中止することもあります。





地域サロン うたさと 8月

ヴァイオリニスト 青錦さん／ピアニスト 木森菜見子さん



【銀行口座】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番238（普）口座番号1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

コンビニの会

理事 宮川 優子

〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

URL <https://ezeru.or.jp/>

E-mail convini@ezeru.or.jp

